

# 指定化学物質等検討調査—環境残留性調査—（環境省委託事業）

中西基晴 木村朱美\* 水上雅義

(\*：現水質保全課)

## 1 調査目的

化審法上の指定化学物質について、環境残留状況を把握するために、大気中の濃度レベルを調査することを目的とする。

## 2 調査方法

(1) 調査物質：クロロホルム(物質番号；(1))、四塩化炭素(2)、1,2-ジクロロエタン(3)及び1,2-ジクロロプロパン(4)の4物質。

(2) 調査期間：

・平成13年10月29～11月1日(4試料)

(3) 調査地点：市原市松崎、松崎大気環境常時監視測定局

(4) 測定方法

固体吸着—加熱脱着—ガスクロマトグラフ質量(GC/MS)分析法により分析した。

[試料捕集法]

大気試料は、Carbopack B と Carboxene 1000 を二層に充填したステンレス製捕集管に、10ml/min の流量で、午前10時から24時間連続吸引した。

[分析法] 従来と同様、加熱脱着装置を用いて捕

集成分を加熱脱着させ、冷却したトラップ管に再濃縮した。次いで、トラップを急速加熱することにより濃縮試料をGC/MSに注入しSIM法により分析した。

なお、加熱脱着装置は、Perkin Elmer 社製 Model ATD400 を用いた。

## 3 調査結果

物質番号(1)～(4)の物質は採取した全ての試料から検出された。

図に、調査物質の4物質にトリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンを加えた6物質の平成元～13年度における平均値の推移を示す。平成13年度の各物質の平均値は過去10年間の平均値と同程度であった。

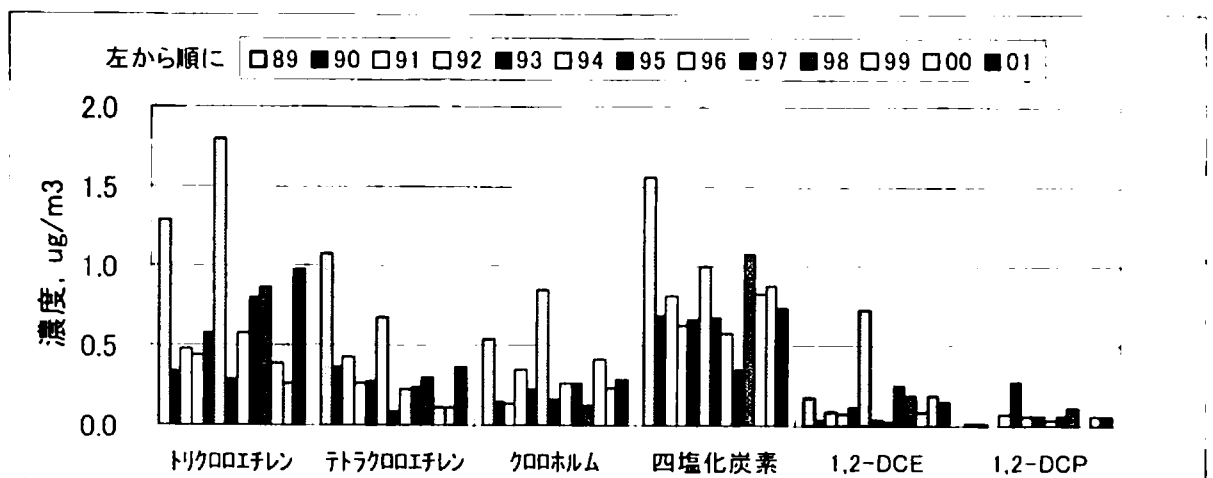


図 1 1989年～2001年度における各物質の平均値の推移